

あごら札幌連絡先 通信担当
細田英理子 松平明美
TEL 644-2927

今月のなかみ

例会報告 --- 1.2	「ぼけ老人を抱える家族の会」
例会案内 --- 1.3	参加記 --- 1.6
均等法をめぐる動向 --- 1.7	恋に墮ちて --- 7
労働者の声 --- 1.8	情報 --- 1.8

1987.7.3 発行

クラシック 音楽史に見る

○ 性差別思想、なぜ女作曲家は生まれなかたのか――

ふだん何げなく耳にしているクラシック音楽ですか――今日はフェミニズムの視点からスポットをあけてみます。

藝術の分野の中で特にクラシック音楽は父権的理論構造を持つと言われています。原因は色々と考えられるでどうか、音楽創造の源となるエネルギーの中に、女性差別と英雄(天)草分け的なかくされていることも見過ごせません。

音楽史をフェミニズムの立場から考察することは、未知の分野であり、余りにも遠大なテーマですし、資料も不足しています。どこから手をつけてよいか、悩んでいます。うちで例会日か来ていますたとえの実態ではあります。先にのべた①クラシック音楽中の女性差別②英雄(天)草分けについての二点に焦点をあわせて考えてみたいと思います。今回は極一意的発表にとどまりましたか、そのよりよき自己表現のための手かかりとなれば幸です。

なぜ、なにをクラシック音楽に学ぶのか？！

老衰したヨーロッパからは何を学ぶのかは近年の風潮があり、又、東洋哲学ブーム(?)から、外国人より日本人の方にヨーロッパ思想を軽視するムキがみうけます。(もし何をどう学ぶかと明確にしなければ批判できません)ヨーロッパ諸国は國民音楽は強力であり、それと一緒に世界的に普遍性を獲得しています。それはヨーロッパの諸国民、ヨーロッパ市民階級や、近代國家を形成するためにいたたかった連続的な思想的、社会的闘争の膨大なエネルギーの産物なのです。(日本には國民的伝統と称するに値する音楽はないと思ふ(省略))(か(近い)国家形成の陰に女性差別――あたして見落せません)。

6月
例会
報告

→クラシック音楽史における女性差別
性別役割分業によっての創造力は
いかに抑圧されてきたか、→

先に、アメリカの創造性研究の成果を収集して
るエリカ・ラングの流れをくむ見解を述べて
みる。

創造性は生活のあらゆる場面に及ぶ
在っているものだよ。ある一定の状況の下
では、發揮されない。それには次のよ
うな要因がある必要である。

- ①個人から安全な生活圈から出て、未知
の世界に飛びこもうとする精神的自由を
もつること
- ②知識を学ぶこと
- ③精神の自由とその発達を保証す
るような、安定した環境にあること。

一方、これに反するもの、情緒を抑圧するもの
が、創造性の阻害要因は

- ①環境との馴染み
- ②権威への屈従

女は歴史的にみて前記の三項目には
どれもあまりまらない。男はすでに世
から経験や知識を身につけるため必要な
を旅するニギヤー許されていない。(女には
そういう環境はない)。

♪フリードー・シック(女流作曲家)は創作
する時、自分で取り立てるよくなれる程度の
孤独感や必要と/or/る。「心の中に目で
向け静かに内省するためには、日々の喧嘩や
気分を吐き出すような刺激から解放される必
要があり、一人きりになるのが大切である。しかし
普通の女にはそれができない」

今回、音楽史の中にある性差別について
色々と(決して多くはない)本を読みあさっている
うちに、だんだん腹が立ってきました。
今まで一つの評価をしてきた歴史上の

人物(男)の女性べつ視のものすごいこと!
ルソーは音楽を重視し、作曲までしてますから、これはブルジョアジーの男のために「食仝人は教育は
不用。全の人間の全ての才能を育むべきは危険」
この人間の中に女は含まれてません。

ペストロツチは極端な女性差別は、女
を妻として制約してしまう結果になります。
さあ、ひとつ紹介します。

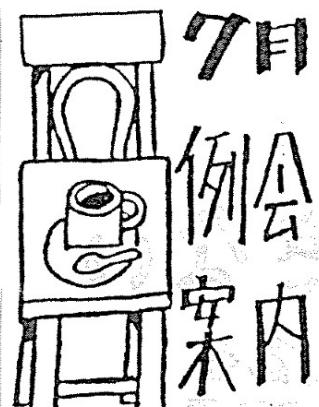
「女子の内に秘められた、伸びやかにする才能を
抑えつけ、自覚のないうちになんとか隠して
(もうとか)教育者の男めであります」
ハイデンライヒ 1800年。

今回はスペースやなく3Dで山あがられませ
んか。ワーグナーの性差別主義は、音楽学者に
とつよりも、むろ精神科医にとって、より深刻
とまで言われているし、ベートーベンの聖母と娼
婦という女性像の分裂は、当時の思想をあ
らわしています。人間は時代という制約を越
えることはできないとは言え、女はかくも苦難から
め出されてきたのか! 女は音楽創造のテーマとなり
男たちからあかられたままられて来たけれど、決
して創り出す立ち場には、なれども立たないのです。

英雄(天皇)崇拜とは何を意味するか?
字数に余裕ないので、結論から言います。

優越思想の背後には必ず差別思想があり
ます。(ベートーベンはブルジョアジーの優越思想と代弁
します。クラシック音楽はいつも時代の支配
階級を支える役割を果たしてきました。)女の側には
英雄(天皇)崇拜がることは言えません。

「ヨーロッパの女性(おくれて来た近代人と言ひ出します)か
女か先生(また)人間との尊厳と自尊心を
とりもどすには、男の美意識を尺度とするだけでなく
自ら仁慈愛を取って本氣で自己形成(いいか
なければならぬ)と思します。(谷百合子)



7月
例会
案内

文部省における 女性差別

「智恵子物語は天婦羅のバイブルのように言められてゐるが、本当にそうなのだろうか？」20数年前、卒論で『智恵子物語』を取り上げた時、私は、つたない序文をどういうふうに書き始めました。

その時、智恵子の悲劇には、私にとって自分の問題でもありました。女らしく生きること、実存を捨てて一般の存在の中に自己を埋没させてしまうことの苦痛。目覚めかけた者の苦しみを私はすうと引き受けたような気がします。結婚とは種の爲に自分を捨てる事、殺すことだと自分に言い聞かせたことがあります。智恵子の苦しみ、智恵子の結婚の不幸を女側から語ることは今必要なことだと考えます。

駒尺喜美さんは「魔女の論理」の中で、「女が男によって物に貶められている男女の関係構造の中には、エロス不在（人間交流の欠損感）は永遠に続くしかないと書いています。「魔女の論理」は、エロス復活を求めてウマニリフの視卓から、漱石・光太郎・荷風・石原慎太郎・五木寛之などを読み直してみせたエッセイ本です。

男女の関係性の中で、相互の自由の承認をほざきと実現することができるかに迷いがあるのか、「魔女の論理」の読書会を持つことによって、資本制の中の結婚制度の歪み、男が作った女の神話、女の愛情のどちらなどを検証しながら、左ミニストラムの方向を探ってみたいと思います。
(レポート：奥村里子)

日 時 7月13日(月) 6:30より

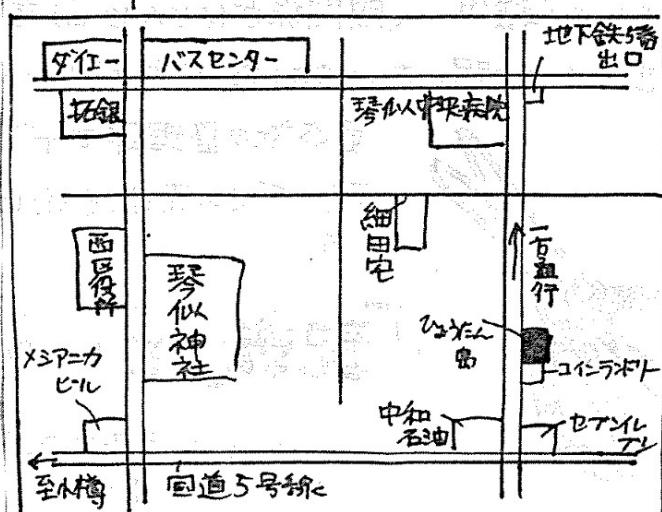
場 所 西区24軒4条7丁目

ひよだん島

(TEL) 644-2038

車止めなどはあるので、当日、直接
聞いて下さい。

↑至琴似JR駅



"均等に働くいても 平等は守りにできない

一 均等法をめぐる新聞労働者の動き

PART IV -

新聞産業ではたらく婦人の全国集会(新聞労連青婦協主催)が5月末、島根県松江市で開かれた。年に



1回、全国各地から約100人が参加して話し合うのだが、新聞製作という共通点を持つ働く女性が互いに知り合い、勇気づけられ、考えさせられるとても充実した集会だ。今年のテーマは「均等法」施行1年の検証。私たちの労組からは記者生活23年のFさんと昨年入社した若い記者Yさんの2人が参加した。6月18日開かれた婦人部の定期大会でFさんが参加報告をしてくれた。

イビリ、やっかみ、人間関係破壊

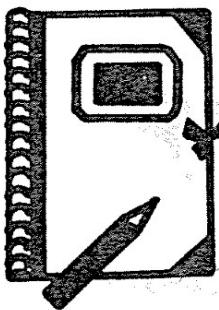
はやはやと深夜勤務、宿置勤務を受け入れた朝日の女性には、男と「均等」に戦っていても平等はもたらされない現実があるといふ。ある支局勤務の経験者によると、平等どころか男性のイビリがひとく、特ダネを書けば「女はとくだ」といわれ、ちょっとした失敗でも「やっぱり女はためだ」としつこく言われた。「私はいつまでもなんなんだ、と自分のアンデンティティーを失ないつらかった」とこの体験者は語り、「転勤で支局を去るときには、いなくなつてほとするとまで言われた」とのこと。

Fさんは「職場の人間関係がほとんど破壊されている、男女平等などありえない」と心を痛めつつ聞いた」と話したが、私も「悲惨だ」と思った。この人は現在、名古屋本社の整理部で午前4時までの勤務を週3日している。そこで「この先働き続けられるのか」とつくづく心配になつた。



「配転」という名の攻撃

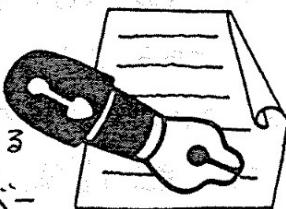
Fさんの報告でもうひとつ興味深いことがあった。新聞社の經



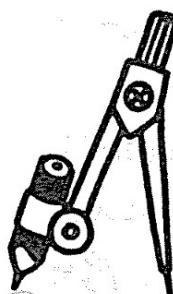
営戦略の中での女の働きかせ方がほの見えるようだと思った。

といふのは、深夜、宿泊労働といふと、とかく華やかに若い女性記者がバリバリ働くことをイメージしがちだが、実際には中高年層の配転といふ形であらわれている方が多いらしい。「取材記者24年目の人人が資料部で午後11時までのローテーションに入れといわれ拒否した」「あと2年で定年といふ地方記者が調査部に配転、データベースのインデックスを作る仕事をさせられている」などの例を聞いて考えさせられた。経営者は女はまじめに働くことを知っていて、「縁の下の力持ち、的部門で夜もこき使ふうとしているわけだ。

データベース業務は女を狙え



さらに、各新聞社は今はやりのデータベースを手がけているがこの部門が「女に適性」とされつあるといふ。日経のデータベースで働く女性は「24時間報道体制になり、締め切り時間がなくなる。日経は世界中に入力があるから日本の夜の仕事は昼の間にしてもらいうことができます。私達は日本の夜は夜にしようと決めて働いているが、日経ほどの情報網をもてない小さな新聞社は夜昼なく働くことになるのでは」と発言していたといふ。



フレックスタイムもテコに

いま進められている労基法の改悪(フレックスタイムなど)が通っていまえば、会社の都合で夜も昼もなく働かされる危険性は大いにある。
あー大変。労働運動はまた後手後手にまわってしまう。急がなくっちゃーと
つくづく感じた。

(い)やな予感、危険は身边に

丘さんの報告を聞き「大変な時代になる」と感じていた先輩、社内でかつての上司とすれ違った。「さみ、データベースにものすごく関心があるんだってね」。この人は、現在、社内で進められているデータベース計画の親分なのだ。「え?」そんなことは全く身に覚えがない。今までほとんど関心もなかったし、どこかで「関心がある」と口走ったことも全くない。ドキリ。いやな予感がする。(新聞労働者)

「ほけ老人を抱える家族の会」 講演会に出席して

人生 ほと・ほとに生きる！？

「おとしは あいくつですか？」 すぐ答えられますか？ 私は、いつの頃からか（今年は何年だっけ）から数え始めようになってしましました。

“ほけ”が始まるいろいろかとうかは 年金を尋ねることで 判断で立とく。もうちん
「100 - 7 = いくつ？」でもよ…のだが、これまでは、おとしよりのプライドをいたく傷つけた。
答えちぬなげにはなあさらだ。

私は、ほけたら どうせ何をわからなくなるのだから “じ配するだけ無駄”と思つてい
たのだが、これが 大可憐い。 “ほける”ことは決して 慢怠ではないのは“極楽”
でもないのだ。脳の萎縮によって 知的機能が落ち、記憶が近づきながら抜けていく。
その人が自分だけ 50歳に戻ってしまう。長年連れ込んだ妻をおばさんにしてしまった。
それにてしまう。しかし、感情や性格はそのまま残っているために プライドを傷つ
けられたり、不快感はある。不安でいっぱいな状態なのだ。まわりの人とか、上手に
介護していくには“判断力に欠けるために、感情をストレートに爆発”でも、それ
か徘徊となって暴れたり、大声を上げて騒いでたりという形になる。それまでに、まわ
りの人とどんな人間関係を作ってきたのか、心の安定に大きな因縁をもつ。決して、今
の自分とは切り離せない問題だ”と…うことか…とてもよくわかった。

“ほけ”が始まると、家族の脳が一歩まる。介護にも限界があるのだが、受け入れる施設の
方ほとんど十分とはいえない。医療の分野では、ほけ老人の“じ”を教える教育がなされてい
ない。老人病院に入ると、早い人で一週間で亡くなる。とても回復が速いのにそうだ。厚生
省は来年度から“老人保健施設”を全国的に広げようとしているのだが、これは病院に
近いものらしい。老人ホームの待遇は良いのだが、しかし、待機してしまいかつてなかなか入る
ことかできない…。自分の老後は何か個人的に解決していくと決めていたけれど、
これらの超高令化社会に向けて、公的援助の充実をすすめいかないと、非人間的など
が続発していくよう気がする。

会の参加者はほとんど女性であった。介護したことのある人、現在介護している人、老人ホーム
の寮母さん、老人病院の看護婦さん、介護用具を扱う店の保健婦さん、次から次へと
発言が続々。情報を伝え合った。きっちりしたサの生きさまか感じられて、じ地良かた。
(年を取ればとる程度ほける確率が高くなります。85才で4人に1人のこと
また、ほけを防ぐことは現状不可能だ”といふことです)

松平

恋に附して

恋して……



目と目が合ったその時から私は恋におちました。あとで知った事に、彼は16年下の社会人。私は人生の分岐点を迎える。彼の年代からしてみれば、まさにオバサンにあたるのです。何の因果か、その男性に寝ては夢起きてはうつつきぼろしか……の世界に引き入れられてしまいました。そんな事が人生にあるということを長い間やすれ聞いたように思います。ともかく現実的問題はひとまず横においとして、青春してみつか!!的な感覚で、しっかりと根をしつけたり、デートの約束をとり付けたのです。胸はすむ思いで彼と会いました。彼のオカリの80円のcoffee一杯で月並に人生のこと、世間のこと、スケジュールのことなどなど、夜おそくまで語り合ったのです。

ひとときの遙瀬かないし夢うつつ



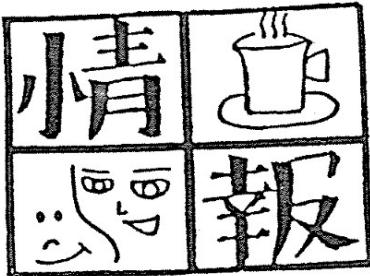
短いことは 時の流山よ。

人通りの少なくなったひんやりとした冬の風景の中、彼と肩を並べて帰る道。なぜかひとつつかれた気がしました。彼は樂しそうに微笑み二人で歩くにはとてもいい時間でしたはずなのに、私は三ラクル一方だったのです。私とこの男性との向には女と男として繋いでいくものは何もないではないか。彼には「史にすりこまれた男意識」が頭然とあって、たとえば通常的な責任とか、社会通念とかが、背中に重くのしかかり、己の個人的価値が見えていないことに気付きました。私はしかたのない事かも知れません。私には既成概念への願望など毛頭なく大人の男と女としてメンタリに共有出来る世界が存在して下さいねは。それだけで十分満足だったのに、厚き壁に押されて、それ以前へ進めぬ事を知りました。反面私自身にとっても同じ匂いかげかけられることになるのでしょうか。ひと区切りついてしまったのも同然の私の恋は今、肩なのに秋風がふいているみたいなのです。あごら5月例会テーマ「女性の胸には深くて暗い河がある」の一節を思い出しても苦笑いしてしまいます。今日このごろの私は



目で語る いの世界に鬼せられて

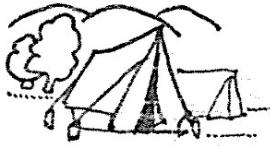
まだめづらめし 恋は人よ <ミセスローラ>



87' 真夏の反核祭.

8月1日 午後2時

8月2日 正午まで



場所 池袋サンシャイン水浴場

参加費 大人 2000円、中高生 1000円、以下無料

問い合わせ ひらひら (746-2801)

音不悦氏講演会

「掌極って、どんなところ?!」

とき 8月1日(土) 午後1:30~5:00

ところ 稲内市海員会館2階ホール

料金 500円 カンパ

連絡先 TEL (22) 1252

一 稲内の熊谷工場へ

朗読劇 1945年ヒロシマ・ナガサキ

この子たちの夏

とき 7月15日(水) 午後6:30開場

7:00開演

ところ 道新ホール

入場料 親3券 3,000円

大人 2,500円

高校生 1,500円

中学生 1,000円

「地久会」佐々木愛他



あごらミニの編集会議

を行います

7月5日 午後3:00より

細田宅にて

テーマ 「性に関すること」

話し合いで、テーマをしぼっていきます。

原稿用紙に名前をまとめて 参加すること!!

あとがき

あごらミニの編集に向けて皆のじかーつになってる
なと感じます。 みんなでいこうぜ!!